

1級合格者に聞く
「ハングル」能力
検定試験

私の学習
ポイント



小原まり子様（大阪府在住 24才） 第34回 1級合格者

2010年8月11日に日本テレビの番組「1億人の大質問 笑ってコラえて！」で紹介された小原まり子様に協会がインタビューした内容を掲載いたします。

あくまでも、ご本人の経験に基づいた内容ですので、すべての学習者の方にとって良いアドバイスになるか分かりませんが、それでも2年8ヶ月で1級を合格された小原様の学習方法からは学ぶ点が多々あります。「ハン検」受験を目指す皆様の1つの参考にして頂きたい、ここにご紹介いたします。

ハングル能力検定協会 事務局

Q1. 韓国・朝鮮語を習い始めたきっかけは？

最初に「勉強してみよう」と思いついたときは「ちょっと韓国語がわかったらいいなあ、ハングルが読めたらいいなあ」という、本当に軽い気持ちでした。

わたしは元々、何かに憧れたらすぐに挑戦するタイプで、これまでに「できたらいいなあ」という思いつきがきっかけで、ペン習字や手芸などを趣味としたことがあります。韓国語もそれらと同じように、ちょっとした趣味になればと思って始めました。

きっかけとなったのは、2007年の秋に「ワンコリア・フェスティバル」というお祭りに行き、そこで鑑賞した韓国の歌や舞踊、俳優さんのトーク・ショーに意外にも感銘を受けたことです。

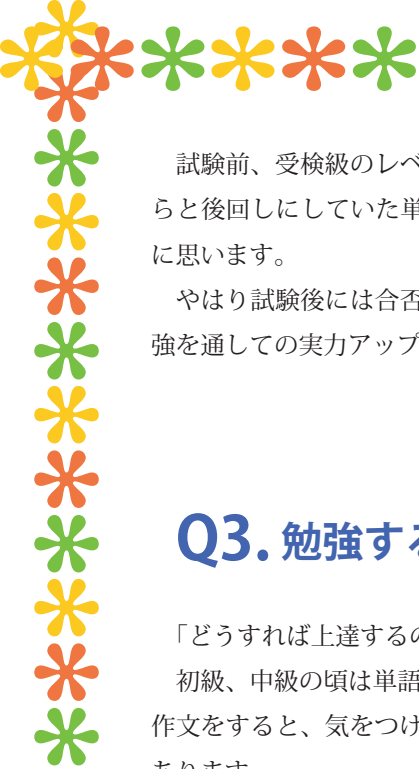
実際に韓国語に触れてみると、ハングル文字を読んでいくのがまるで暗号を解いているかのように面白く、まったくの初歩の学習者であったにもかかわらず韓国語学習に魅力を感じました。

そして急遽、進路変更（本格的に韓国・朝鮮語を学んでみることを）を決心し、2008年4月、京都外国語専門学校の韓国・朝鮮語学科に入学、本格的に学ぶようになりました。

Q2. 「ハングル」検定の受験の準備をする過程で、一番心がけていたことは何ですか？

「ハングル」検定は、自分にとってかなり難しい試験で、合格だけにこだわると勉強を息苦しく感じてしまいがちでした。そのため合否にこだわるよりも「試験勉強は実力を向上させるよい機会」と捉えて、できるだけ気楽に学習に取り組むよう心がけていました。





試験前、受検級のレベルに沿って勉強していくと、普段苦手だからと飛ばしていた文法事項や、覚えにくいからと後回しにしていた単語を「これも試験範囲だから！」と果敢に勉強でき、それが苦手克服につながったように思います。

やはり試験後には合否がとても気になりましたが、一方で苦手分野が克服できたという達成感もあり、試験勉強を通しての実力アップを実感できていたと思います。

Q3. 勉強する中で挫折しそうになったことはありますか？

「どうすれば上達するのだろうか？」などと、勉強の方法に悩んだことはよくあります。

初級、中級の頃は単語がなかなか覚えられず、覚えつつもすぐに忘れてしまうことに悩みました。また、作文をすると、気をつけているつもりなのにたった1文の中に何箇所もの綴り間違いがあり、落ち込んだこともあります。

だんだん上級段階になってくると、学習方法自体が手探りになっていき「上級を目指すってやっぱり難しいなあ」と度々感じました。上級へ近づこうとするにつれ、勉強材料(教材や韓国語の書籍類など)をある程度自分で調達して自主的に勉強する必要性が高くなった分、学習方法にはよく悩んでいました。

Q4. シャドーイングについて

シャドーイングとは？

～ネイティブの人が読んだ韓国語を聞きながら、それと同じ文章をあと追いしながらそっくりそのまま音読すること。

シャドーイングを本格的に始めたのは準2級受験後です。準2級受験後は、語彙が増えたことを自分で実感できるほどハンゲルを読むのが楽になりました。しかし実際しゃべるとなると自分の言いたいことがうまく言えず、もどかしい思いをするばかりでした。そこで始めたのがシャドーイングです。

ですが学習を始めた当初から、できるだけ単語を声に出して読んだり、教材も読めるところは音読するようにしていました。当初から「留学」という選択肢はなかったので「上達するには、しゃべる練習を意識的に行わなくては」と、意識していたと思います。

シャドーイングに限らず、教材などを声に出して読むことも十分によい練習になると実感しています。

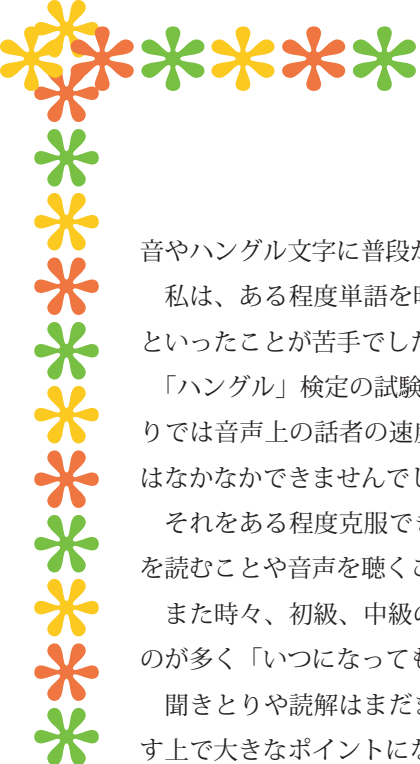
Q5. 上級を目指す方へのアドバイスについて

～量的な学習 / 基礎に忠実に～

たくさん韓国語に触れると良いかと思います。

頻繁に音声教材を聴く、韓国ドラマを台詞に耳を傾けながら聴く、平易な文章を根気よく読むなど、韓国語の





音やハングル文字に普段から慣れ親しんでおくことも実力の一部になっていくと思います。

私は、ある程度単語を暗記し文法を一通り勉強した後も、長文のハングルを読んだり、聞きとりに集中したりといったことが苦手でした。

「ハングル」検定の試験勉強で言うと、筆記では文章を読み進めるのが遅く解答時間が足りなかったり、聞きとりでは音声上の話者の速度についていけず、同じ内容を、読んで理解することはできても、聞きとりによる理解はなかなかできませんでした。

それをある程度克服できたのは、知識を増やすこと（質的な学習）以外に、上級という領域にこだわらず文章を読むことや音声を聴くことを繰り返し、韓国語に慣れる＝量的な学習の成果が大きいと思います。

また時々、初級、中級の単語を復習してみると、忘れていたり用言では活用があやふやになっていたりするものが多く「いつになっても基礎の復習は大事だな」と痛感することが多かったです。

聞きとりや読解はまだまだ苦手ですが、たくさん韓国語に触れること、復習を定期的に行うことが上級を目指す上で大きなポイントになるのではないかと、日々の学習の中で感じています。

Q6. 今後、どのような学習をしていこうと思いますか？

韓国・朝鮮語はこれからも学習を継続して、実力の維持に努めたいと思います。

これまでは、試験勉強や「うまくしゃべれるようになりたい」と思っただのシャドーイングや音読を重視してきた部分がありますが、これからは韓国語での作文や翻訳の練習に力を入れていこうと思っています。これから語学に携わっていく上で必要なことはたくさんあると思うので、ひとつひとつ勉強して身につけていきたいです。

また、韓国・朝鮮語の勉強を通して、今まではなじみの薄かった文章（韓国・日本両国の小説やエッセイなど）に出会ったことから読書が好きになりました。これからいろいろな分野の本を読みたいです。



私の学習
ポイント

